

「お茶フクロウ(7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

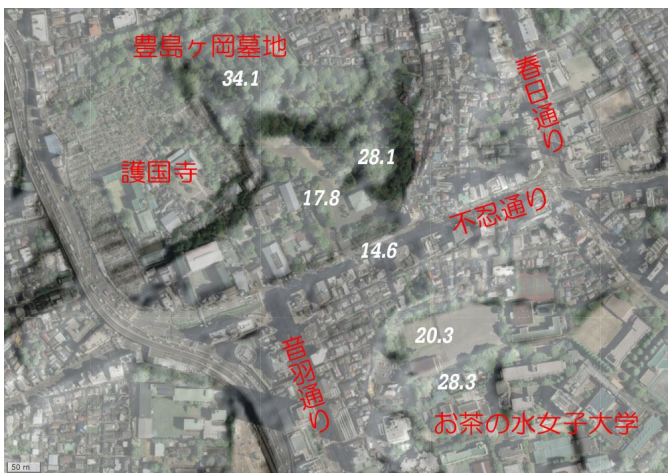
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

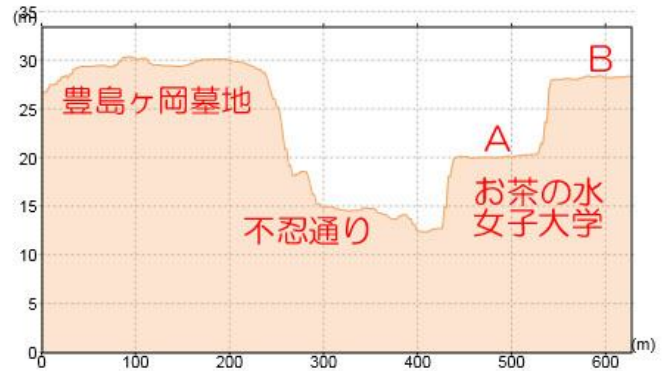
大学の北西500メートルほどにある、豊島ヶ岡墓地は、皇族専用の墓所で、皇族の葬儀など特別な行事がない時は、昼夜ともほとんど人はいない。



これが航空写真で見た豊島ヶ岡墓地である。もともと護国寺の敷地だった場所が、皇族の墓所として接収され、現在も護国寺のとなりに位置する。ほとんどが森に覆われていて、ところどころに陵墓(上円下方墳)が点在するらしいが、一般の者は全く入れないので、どんな環境なのかは想像するしかない。



航空写真だけではよくわからないが、標高データから作図した陰影立体図を重ねると、地形がはっきりする。(図中の数値は標高m) 豊島ヶ岡墓地は、音羽川(神田川の支流)の源流が、武蔵野台地を浸食した、源頭(源流)付近に位置していることがよくわかる。



垂直標高図を作成すると、更に地形の様子がよくわかる。不忍通り(音羽川の浸食谷の一部)を挟んで、豊島ヶ岡墓地とお茶の水女子大学は、ほぼ同じ標高とわかる。図のAとBの段丘崖状の境界は、本学が陸軍の施設だった時代の、人工的な構造と思われる。



写真は上図のA地点から見た、豊島ヶ岡墓地の森である。林立するマンションの陰で、よく見えない。



しかしB地点にある、大学校舎の6階から見ると、豊島ヶ岡墓地の森の全容がはっきり見える。規模こそ小さいが、森に覆われている丘とわかる。ここはいわゆる「音羽の森」の名残なのだという。標高も本学とほぼ同じ。私がフクロウだったら、この森で営巣し、本学や反対方向の鬼子母神まで「散歩」しに行くにちがいない。一度、特別許可をとって調査してみたい。